



公立学校共済組合
東海中央病院
Tokai Central Hospital

東中

第1号 令和5年8月

だより

眼科

飛蚊症

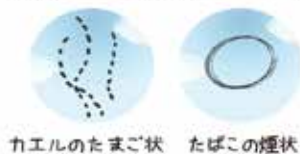
東海中央病院 眼科

飛蚊症って何？

飛蚊症とは、モノを見ているときに黒い虫のようなものが動いて見える状態のことです。黒い虫のようなものの形や大きさはさまざまで、視線を動かすと追いかけてくるような動きをする場合もあります。症状が出る年齢もさまざまで、20代から症状を自覚する人もいますが、高齢者ほど、特に近視の人ほど多く見られ、多くの場合心配ありません。しかし、飛蚊症は、自覚症状が少なく、視力が低下したり痛んだりしないことが多いので、たいしたことはない、眼科医に受診せずに放置していたために、**網膜剥離**や**眼底出血**などの重大な目の病気を見過してしまい、失明することがあります。飛蚊症になったら、ぜひ、眼科医の診察を受けることをおすすめします。



飛蚊症の 見え方

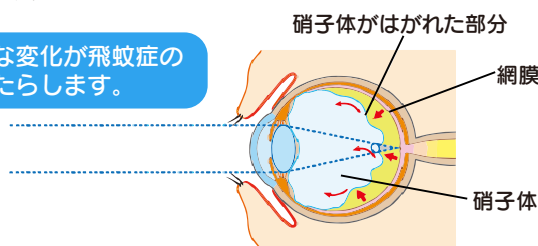


飛蚊症の原因は、生理的なものと、目の病気が原因で起こるものとに分けられます。

■生理的な原因の場合

生理的な原因で起こる飛蚊症は、目の構造と密接な関係があります。目の中は空洞ではなく、透明なゲル状の硝子体という物質で満たされています。硝子体は歳をとるとゲル状から液状に変化し、次第に収縮して網膜から剥がれます（硝子体剥離）。このような変化が飛蚊症の症状をもたらします。

このような変化が飛蚊症の症状をもたらします。



眼科診療科ページ

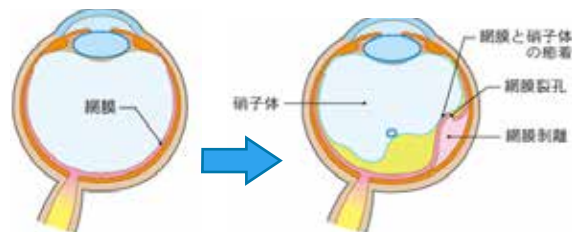
当院ホームページ眼科ページは、下記リンクよりご覧ください。

<https://www.tokaihp.jp/division/ganka/>

■病気が原因の場合

網膜裂孔・網膜剥離

前述したとおり、眼球の中の硝子体は、加齢とともに液状に変化していき収縮する際、網膜から剥がれていきます。これを硝子体剥離といいます。硝子体剥離が起こるときに、網膜と硝子体の間に強く癒着している部分があると、硝子体に網膜が引っ張られ、裂孔ができてしまいます。その網膜裂孔から液化した硝子体が網膜下に入り込むと、網膜がはがれてしまいます。これが網膜剥離です。このような現象が起こると初期症状として目の前に飛ぶ浮遊物の数が急増し、放っておくと失明につながります。



硝子体出血

糖尿病や高血圧、外傷などにより眼底で出血が起こり、その血液が硝子体に入ると突然、飛蚊症の症状を感じたり、目の前に赤いカーテンを引いたように感じます。出血の量や部位によっては視力が著しく低下します。

ぶどう膜炎

ぶどう膜という部分に細菌やウイルスが侵入したりすることで炎症が起こると、硝子体にも濁りが生じ、飛蚊症の症状を感じます。

■生まれつきの飛蚊症

母体内で胎児の眼球がつくられる途中では、硝子体に血管が通っていますが、眼球が完成するとこの血管はなくなっていくのがふつうです。しかし、生まれた後も血管の名残りが硝子体に残存すると、これが“濁り”となって飛蚊症の症状を感じることがあります。このタイプの飛蚊症は、生理的なもので健康な目にも起こる現象です。症状が進まない限りはあまり気にしなくてもよいでしょう。

最後に…

飛蚊症のほとんどは病気でないものですが、ときに思いがけない病気が原因となっていることがあります。症状を感じたら早めに眼科を受診し、精密検査を受け、放置してよいものかどうかを診てもらうことが大切です。

「早期発見、早期治療が大切です」